

「死と復活の予告とヤコブ、ヨハネの願い」

2022年03月30日

「今、私たちはエルサレムへ上って行く。人の子は、祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して、異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を嘲り、唾をかけ、鞭打ち、殺す。そして、人の子は三日後に復活する。」(マルコ福音書 10 章 33 節～34 節)

「しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、あなたがたの中で、頭になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」(マルコ福音書 10 章 43 節～45 節)

主イエスの一行は、エルサレムに上る途上にあつた。この時、主イエスは毅然と先頭を歩まれた。弟子たちは、その姿を見て驚き、従う者たちは恐れた。今から、重大なことが起こる予感を感じたからである。主イエスは再び弟子たちを呼び寄せ、自分の身に起ころうとしていることを話し始めた。「今、私たちはエルサレムに上って行く。人の子は、祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して、異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を嘲り、唾をかけ、鞭打ち、殺す。そして、人の子は三日後に復活する。」これは、死と復活の三度目の予告である。ところが、弟子たちはこの予告に対しても、聞く耳を全く持っていなかった。

ゼベダイの子ヤコブとヨハネが主イエスのところに来て、「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが」と言ってきた。「何をしてほしいのか」と問われると、二人の兄弟は、「栄光をお受けになるとき、私どもの一人を先生の右に、一人を左に座らせてください」と答えた。兄弟は野心家で、エルサレムに上る主イエスの毅然とした姿を見て、いよいよローマから独立する革命を起こし、主イエスが王になられる時が来たと思ったのである。王になられた時、自分たち兄弟に、右と左に座る高い地位を約束してくださいと願った。主イエスは、「あなたがたは、自分が何を願っているのか、分かっていない。この私が受ける杯を飲み、私が受ける洗礼（バプテスマ）を受けることができるか」と言うと、彼らは「できます」と返答した。高い地位が得られるならば、どんな苦勞もいとわないと、威勢よく答えた訳である。主イエスは嘲られ、殺されると予告したのであるが、聞きたくない話は耳に届いていない。主イエスは、あなたがたは私が受ける苦惱の杯を飲むことになる、しかし、私の右、左に座ることは定められた人々に許されると語られた。

他の弟子たちは、兄弟が自分たちを出し抜いて、依頼しているのを見て、腹を立てた。彼らも同じように、高位を狙っていたのである。主イエスは、心が凍るほどの孤独を感じたであろう。主イエスは三度も死と復活を予告されたが、弟子たちはいつも見当違いな応答をしている。マルコ福音書の記者は、主イエスの死の決意と弟子たちの応答の決定的な落差を強調している。そこで、主イエスは一同を呼び寄せ、「あなたがたも知っているように、諸民族の支配者と見なされている人々がその上に君臨し、また、偉い人たちが権力を振っている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、あなたがたの中で、頭になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」と言われた。これは平面的な道徳の勧めではなく、主イエスがご自分の命を献げて、罪の赦しを実現する福音に基づく言葉である。